

平成30年10月11日

保護者 様

松戸市立常盤平中学校
校長 田中 弘道

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果について

秋冷の候、保護者の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素より本校の教育活動にご理解・ご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

さて、このたび平成30年度全国学力・学習状況調査の結果及び本校生徒の分析結果をまとめましたので、お知らせします。

今後も学力向上はもとより、本校教育活動の推進に努めて参りますので、保護者の皆様方のご支援の程よろしくお願い致します。

1 全国学力・学習状況調査の概要

本調査は、生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育指導の充実や学習状況の改善をねらいとし、国語・数学・理科で全国の中学3年生を対象として、本年度4月17日(火)に実施されました。

調査内容は、主に「教科に関する調査」と「生活習慣や学習環境に関する調査」です。「教科に関する調査」の国語と数学では、以下のようにA、Bの2種類の問題により実施されました。今年度はそこに理科を加えた5つの調査を行いました。

- 国語A、数学Aは主として「知識」に関する問題を中心とした出題
- 国語B、数学Bは主として「活用」に関する問題を中心とした出題

2 今回の調査から

本校の平均は、国語・数学の2教科の「知識」に関する問題、「活用」に関する問題、理科の問題の5つの調査すべてで、全国平均を上回っています。

[国語]・「話すこと・聞くこと」「書くこと」など基本的な知識は概ね定着しています。

- ・「多様な語句について調べたり、考えたりする力」をさらに深めていくことが課題です。

[数学]・「数と式」「図形」の基本的な知識は概ね定着しています。

- ・公式の意味が十分に理解できていないため、公式を利用する問題が苦手な生徒も少なくありません。

[理科]・各単元の関連性や連続性の意識が薄いようです。

- ・既習の内容で同じように考えれば解くことができるはずの問題が、物質が変わると対応できなくなる傾向があるようです。

[生活習慣・学習環境]

- ・「学習習慣」「生活習慣」「自尊感情」「規範意識」「各教科への関心」「地域・社会への関心」全ての項目において、全国平均を上回っています。学習に対する目的意識があり、生活習慣、学習環境が整っている生徒が多いようです。

3 今後、学校での指導に生かしたいこと

確かな学力を身につけさせていくために、学習課題を明示し、個の学びの時間と協働的な学びの時間の工夫を目指した授業改善に努めていきます。また、漢字練習やマイマスなど家庭学習を促す課題を継続させていきます。国語では、生活に根ざした表現力の向上が課題であるため、日常生活に活用できるような語彙力の向上に努めます。数学では、基礎的な計算力を今後も高めるとともに、導入時の内容を工夫し、公式の意味についても理解を深めていくように指導していきます。理科では、比較のための条件整理をするために、自ら考える場面を設定します。また、暗記することで問題に対応しようとするため、物質が変わると解くことができないようです。応用力を養うため、考えて結論を導き出せるよう授業の課題を設定していきます。

4 その他

- 1) 基本的な生活習慣の確立が学習の土台になります。学校でも指導して参りますが、ご家庭でも「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣を大切にするようにお願いします。
- 2) 日常の会話を増やすことで、自分の考えを正しく相手に伝えることができるようになり、さらには論理的な考え方に繋がっていくと思われれます。ご家庭での対話も大切にしてください。
- 3) 学力は、国語、数学、理科の3教科だけで測定できるものではありません。特定の一部分だけでなく、学習が身につく過程を重視し、取り組む姿勢や本人の目に見えない努力を評価することが大切です。本調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、本校の教育活動の一側面であることをご理解下さるようお願い致します。